

## 2019年3月期 第1四半期決算説明会（電話会議）主な質疑応答

Q：1Qのコア営業利益について、3分野（セグメント）それぞれについては計画をどの程度上回ったのか？

A：全ての分野で上回ったと捉えており、オートモーティブ（AM）分野については、特にOEMで我々の見込みより売上が増えた。パブリックサービス（PS）分野については、無線システム事業の米国子会社が好調に推移して計画を上回った。メディアサービス分野についてもAM分野、PS分野と同様に計画を上回った。当1Qはどこかが大きく計画を上回ったというわけではなく、全体的に計画を上回ったと捉えている。

Q：全社トータルではどの程度計画を上回ったのか？

A：コア営業利益、営業利益については黒字を確保できようと思っていたが、最終の純利益は若干の赤字になると見込んでいた。そういう意味で、全社で数億円程度我々の予想を上回ったと捉えている。

Q：AM分野のOEMが好調だったということだが、用品と純正それぞれで、またナビゲーション、オーディオ、ドライブレコーダーなど、何が具体的に良かったのか？

A：純正については、ディスプレイオーディオが好調に推移した。用品については、ドライブレコーダー、ナビゲーションともに好調に推移したと捉えている。

Q：無線システム事業が久しぶりに増収になった。要因は米国子会社が良かったということだが、Zetron、EFJT、ケンウッド端末それぞれの販売はどうだったのか？また、無線システム事業は1Qはまだ赤字だったという説明だが、黒字化するタイミングは2Qなのか3Qなのか、それ以降になるのか、を説明してほしい。

A：一番大きく伸ばしたのは子会社のEFJT。要因は新商品の無線端末が市場にも浸透してきて好調だったということ。それにとまって利益も改善した。Zetronについては前期比で若干プラスだったが、ほぼ昨年並みという状況。ケンウッド端末については売上はほぼステイだったが、原価削減効果などが発現して利益は改善している。無線システム事業の黒字化のタイミングについては、1Qは若干の赤字だったが、2Qは端境期になるので厳しい状況になる。3Q以降で改善傾向になり、4Qで黒字化できると想定している。

以上